

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 1月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	2270600543
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ
事業所名	グループホーム ケアクオリティ かもがわ
所在地 (電話番号)	三島市加茂川町3-32 (055-976-4180)

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年11月17日

【情報提供票より】(平成20年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年11月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 9 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	7.8 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (65,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成20年10月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 82 歳	最低	62 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新井内科クリニック ・ 石田歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から3年、三島大社やスーパーにも近い住宅地に立つホームである。ホーム南面の畑では、農業に携わってきた利用者の指導により他の利用者や職員で丹精した大根が幾畝も育っておりそれはそれは見事なものである。ホーム内にあっては利用者個々の得意なことを見つけ出して張り合いの持てる暮らしが支援されている。管理者はトップダウンでなく職員の自発性を尊重し、職員からの疑問や提案をみんな考えて対応する体制が出来ている。前回訪問時にも感じた、ベテラン職員と若い職員それぞれの持ち味が利用者とうまく混ぜ合って心地よい雰囲気を作っていることを再確認した。「どれだけやってもゴールが無い仕事だけど利用者が楽しそうにしているともっと何か出来ないかなと思う」なんとも心強い言葉である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回訪問から2年近く経過しているが、運営推進会議を通して地域の自治会長や民生委員との関わりが持てたことは心強い限りである。また、管理者のつてを頼って管理栄養士に献立表をチェックしていただけたことも自信に繋がることであった。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回自己評価は各ユニット毎ほぼ全員で取り組んでいる。介護の仕事が始めての職員も多いため解釈に難しい項目も多く、まだ力不足であると謙虚に言いつつも、プロとして十分な介護を提供しなければいけないとの話し合いも出来ている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は偶数月の第2水曜日と決めて定期的実施されている。町内会長や民生委員、介護相談員、地域包括センター職員等の協力により、それぞれが情報を持ち寄って円滑な運営をしている。高齢者の交通事故について警察官から話しを伺ったり、ボランティアを紹介していただいたりとサービス向上に生かしている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情は特に出ていない。面会時や運営推進会議等で利用者の暮らしについての意向は伺っており、部屋の温度調節や衣類の重ね着等細やかな見守りの要望や外出の奨励等の意見が聞かれたが、ユニットで話し合い、また家族とも連携し対処している。家族がボランティアとして運営に参加していることも特徴である。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入して清掃活動等に参加している。町内のお祭りや三嶋大社のお祭りを地域の方々と楽しんだり、保育園児との交流を楽しんだりしている。日常の散歩で顔見知りになった方からは、利用者が一人で散歩していると、後から追って行く職員に情報を報せてもらうこともあり、地域に根付いてきたことが実感できる。小中学生の社会科実習や看護学生の実習、ボランティアの受け入れも積極的に行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちは その人らしく日々心安らかに 楽しく明るい家庭を築きます」を、ホームの理念として掲げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム入り口に掲示して職員の意識付けを図っており、職員からは常に頭の隅で意識して介護に取り組んでいるが、時として飾り物となっていることに気づくこともある、との意見も聞かれた。	○	業務にいっぱいの状態の時こそ理念は守られているか、サービスが低下していないかを管理者・職員間で話し合い、思いを共有して行くことが望まれる。
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して清掃活動等参加している。町内や三嶋大社のお祭りを地域の方々と楽しんだり、保育園児との交流を楽しんだりしている。日常の散歩で顔見知りになった方が、利用者が一人で散歩していると、後から追って行く職員に情報を伝えてくれることもあり、地域に根付いてきたことが実感できる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を理解しており、自己評価にあたって出来ていないことも確認でき、独りでは出来ないことを皆で協力して可能にしたいとの前向きな姿勢である。職員においては出来ていないことに気付いたり、自己の介護の見直しのきっかけとなっている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は偶数月の第2水曜日と決め定期的に実施されている。町内会長や民生委員、介護相談員、地域包括センター職員等の協力により、それぞれが情報を持ち寄って円滑な運営をしている。高齢者の交通事故について警察官から話しを伺ったり、ボランティアを紹介していただいたりとサービスに生かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の地域ケア会議に出席したり、伝達会議で事故対策へのアドバイスを受けていたりしている。また利用者の生活について市の担当課と連携して希望に沿った暮らしに出来るだけ近づけるよう支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	前月の様子を個々に記入した近況報告を家族のもとへ送付している。カレンダーの中に体重測定や行事、面会や受診等を書き込んでおり、加えてコメントが寄せてあり、家族が楽しみに待っている便りである。面会時や電話でも報告の機会を作って家族に安心していただけるよう取り組んでいる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情は特に出していない。面会時や運営推進会議等で利用者の暮らしについての意向は伺っており、部屋の温度調節や衣類の重ね着等細やかな見守りの要望や外出の奨励等の意見があり、ユニットで話し合いまた家族とも連携し方針を統一した対処をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職についての説明は利用者のダメージを抑える為に個々に対応している。新しい職員には利用者と共に作業や会話をしながら先ず利用者を理解し、ホームの雰囲気慣れて、その上でベテラン職員の同行で業務を習得し、馴染みの関係構築に取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による社内研修を受けている。内部勉強会として管理者が資料を作成して、アセスメントとケアプラン、それを実際のケアに反映させてゆく仕組みを解説している。また看護師により褥瘡の手当てや血糖値の管理等について学んでいる。職員ヒアリングではレベルに合った研修を望む声が聞かれた。	○	職員の育成はホームにとって重要な課題である。職員のスキルに応じたOJT(職場内での実務研修)や研修機会の提供など望まれる。テーマを系統立てて年間計画による内部勉強会の充実を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が他のグループホームを訪問したり、市内のグループホーム連絡会等に参加して交流を持っている。法人の研修時に他の事業所との交流を希望したり、職員間で、よそはどのようにしているのかと話題になることはあるが実現には至っていない。	○	法人内の他事業所職員との交換研修による交流等、サービスの向上や職員の満足に繋がる取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者がホームに馴染めるように入居前にホームを見学してもらっている。利用者や家族からの聞き取りや話し合いによりこれまでの暮らし方の理解に努め利用者と職員が馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームには立派な大根畑がある。農業に携わってきた利用者が、野菜作りを職員に教えることは自分の責任と考え、畝の入れ方や種の撒き時を厳しく指導してくれた成果である。また利用者は職員が落ち込んでいるときには「そんなこともあるさ」と慰めてくれたり、「あんたがいてくれたから・・・」など感謝の言葉で支えてくれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活歴の把握に努め日常の会話や行動からも希望や意向を探っている。男性の多いユニットでは特に個人の好みが強固な傾向があり、テレビを見たり、新聞を読んだりそれぞれの時間の過ごし方を支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式により本人や家族から出来るだけ多くの情報を集めている。担当制を取っており、職員は他の職員の気づきも含め利用者の現状を把握することによって課題を明確にしている。課題は計画作成担当者で話し合っで利用者個々に相応しい介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態や状況が変化した場合には見直し期間を待たずにモニタリングを行い、本人や家族の意向を聞き状況を考慮した介護計画の見直しを行っている。また援助目標の達成具合により定期的な見直しも行って常に現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が付き添えない場合の受診や、24時間対応の看護師との連携により医療面の支援をしている。美容師の資格を持った職員や散髪ボランティアの支援が利用できる。家族の宿泊対応や利用者の外出外泊支援もしている。介護用ベッド等必要な方に情報を提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特に要望がない場合には協力医に受診しているが従来からのかかりつけ医の診療を受ける利用者もいる。専門医等の受診は家族が付き添っているが家族の都合によって職員が対応する場合もある。協力医は週4回往診してくれる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人のバックアップもあり、看取りの指針や同意書等用意されている。本人や家族が希望した場合に、職員は利用者がホーム以外の場を求めより、出来る限りお世話したいとの考えを持っているが、現在は医療が必要となった場合には入院している。利用者に対する介護方針は医師と話し合い職員間で情報を共有している。	○	今後在宅での看取りが要求される傾向にあることに鑑み、職員全員が重度化や終末期に対応できるだけの知識と技術習得、またメンタル面での職員へのフォロー等が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者はそれぞれの生き方・職業・年齢等から現在も誇りを高く持っており、時には気難しいところが出る場合もあるが、職員は利用者がこの高い誇りを失うことが無いように配慮している。個人情報は適切に取り扱い、写真掲載の限定等取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の中には利用者同士の交流の輪に入らない方もいるが、無理強いすることなくその方の意思を尊重し、喫煙等にも配慮している。食事に時間を要する利用者には30分前に声かけて一時間ほどかけてゆったりと食べていただく等、個々のペースを大切にした生活の支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員が冷蔵庫の中身と利用者の希望を取り入れながら作成している。職員も同じ物を食事介助しながら戴いている。利用者同士でお世話しあう姿も見られ、家族からも好評の食事に利用者の殆どが完食であった。食後は食器を下げたり食器拭きをしたり、出来ることを職員と共に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴表を作成している。利用者の希望も聞き入れながらの入浴で、毎日入浴する利用者もいる。2人介助での入浴も支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器拭きやごみ捨て、また得意な毛筆でみんなが歌う歌詞を大書したりと出来ることを自分の仕事として取り組んでいる。広告を利用したゴミ箱作り、ドリルでの筆算など一人一人が得意なことに励んでおり、塗り絵の作品は個々にファイルに綴じて作品集になっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺には散歩コースとして、保育園やスーパー、足を伸ばして三島大社などと恵まれている。利用者が一人で外出したいときには後ろから転倒しないように見守りながら付いて行くようにしており、利用者の好きなドライブの機会も出来るだけ作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出により不穏が落ち着く利用者には職員が声を掛け合せて外出を見守っている。他の利用者や家族も頻繁に玄関を出入りしている。利用者の行動パターンを把握し、昼間は鍵はかけないケアに取り組み、夜間は事故防止の面から施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署へ消防計画を提出し指導をお願いしている。防災訓練を実施しており、地域の避難訓練にも参加している。運営推進会議で協力を働きかけており、地域委員や地域消防団長からは協力を惜しまないとの力強い言葉を戴いている。	○	災害発生時には近隣住民の協力が不可欠である。運営推進会議を活用し災害対策の必要性を提示して消防署・地域住民参加のもとでの避難訓練の実施が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は記録されており、水分は出来るだけ取るよう折々に提供されている。多品目を使ったバランスの良い食事で、刻み食等利用者の状態によって対応している。管理者の知人の管理栄養士に献立を見ていただく機会もあり、適切な栄養摂取に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畑が見渡せる廊下の窓辺にはベンチが置かれ、棚には観葉植物の鉢が並び寛ぎの空間となっている。居間の一角には畳コーナーが設けられ利用者が寝転んで職員にマッサージをしてもらっている。壁の飾り棚には実習生の描いた利用者の似顔絵や利用者の書が、居間の壁には利用者の作品や写真が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、桐の箆笥やテレビなどが持ち込まれ、人形ケースや家族の写真が飾られていた。習字の作品やお祝いカードなどを壁に貼ったり、窓辺に小さな植物を置いたりそれぞれに居心地よく過ごせる部屋作りが支援されていた。		